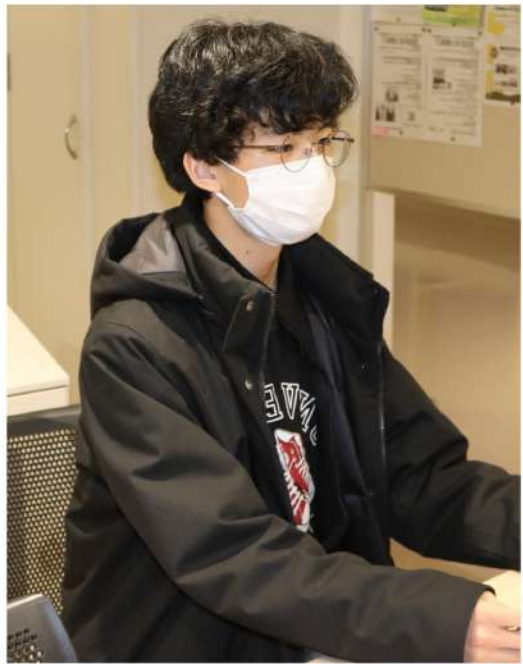


クリスマスコンサート開催



▶インタビューに答える島口さん

12月19日の放課後17時より、多目的ホールにて「クリスマスコンサート」が開催される。このコンサートでは、部員達によるアンサンブル、弦楽、吹奏楽、オーケストラ編成で、冬やクリスマスにちなんだ楽曲を演奏する。新聞局は現管弦楽部部長である五年次生の島口慧吾さんに、クリスマスコンサートや管弦楽部についてのインタビューを行った。

開成の冬の風物詩

開成校新聞

開成中等新聞局
発行責任者 竹内 三上
編集長 藤原 伊藤 小川(北)
顧問 制作者 竹内 眞田 金岡
小川(あ) 小笠原

紙面紹介

2面、3面 開成備品調査
4面 ドイツ留学生来訪



生徒会室前にツリーが設置されている。サンタが来る人も、来ない人も見に来たいだろうか。

島口さんは、クリスマスコンサートへの想いや、今年のコンサートの魅力を話した。

Q1 普段の管弦楽部では、どのような活動をしていますか。

A1 管弦楽部では、楽器ごとに分かれた「パート」単位で個人練習およびパート全体での練習を行っています。また、部全体での基礎合奏や、演奏会に向けた合奏練習も実施しています。

Q2 クリスマスコンサートに向けて、部員たちはどのような雰囲気や練習を行っていますか。

A2 部員一人一人が個々の目標に向き合いながら、楽しく前向きな雰囲気での練習や合奏に取り組んでいます。

Q3 クリスマスコン



▶ライブの様子

「多目的ホールで初ライブ開催」

笑集力は、お笑いを通して、多くの人に笑顔を届ける事を目的に活動しているユニットだ。ネタ作りや練習を重ね、お笑いライブに向けて日々活動している。また、練習は部員同士がそれぞれ意見を言いながら真剣に行っている。更に、12月12日には念願のお笑いライブを開催し、練習の成果を多くの観客の前で披露した。会場は終始笑いに包まれ、来場者からは大きな拍手が送られるなど、非常に盛り上がりを見せている様子が見られた。

ユニット長の波多野さんにインタビューを行い、ユニットでの活動について尋ねたところ、「全員がそれぞれ加えて、管弦楽部の人数が多い編成ならではの迫力でお送りするオーケストラ演奏も大きな魅です。楽曲の演奏中には1人で一部分を演奏する「ソロ」を担当する部員もおり、それぞれの演奏にも注目してほしいです。

Q4 クリスマスコンサートに会場される人々に一言お願いします。

A4 少しでも興味を持たれた方は、ぜひクリスマスコンサートにお越しください！(取材・菅原煌人)

10000kmの学びの旅



▲ドイツの生徒とホスト生徒の集合写真

11月10日から16日の7日間に渡り、ドイツのRobert Havemann Gymnasium校から11人の生徒が来日し、開成の生徒宅にホームステイした。学校生活や放課後活動など、日本での生活を楽しみ、充実した時間を過ごした。

同校は、2017年から2020年にかけて開成中等との交流があったが、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響を受けて

多くの時間をパティの生徒が受けている授業に参加して過ごした。課題を行う時間と重なる場合などは他の受け入れ生徒の授業に参加した。柔道や剣道などの日本の伝統のスポーツを行ったり、化学の授業に苦戦していたりといった様子が見られた。14日は5年生のLHRでプレゼンテーションを行い、ドイツ文化の紹介を行った。昼食は会議室で給食を食べていた。受け入れ生徒の友達も昼食を持ち込んで一緒に食べることで

学校外のホームステイ受け入れ

12月4日から12月7日に外務省が推進する対日理解促進プログラム「JENESYS」の一環として、インドネシア、タイ、マレーシアの若手メディア関係者16名が札幌を訪れた。来日団は札幌滞在中の五日から七日にホームステイを体験し、私はインドネシアのイスラム教を信仰する二名の方を受け入れた。

ホームステイを受け入れて、

ドイツの留学事情

島国である日本は、海外留学について、費用や言語などの面で壁があるため、あまり浸透していないイメージがある。では、ほんのり人が英語を許せて、大陸内であるヨーロッパではどうだろうか。

内閣官房(2023)の13歳から29歳を対象としたアンケートによると、日本は外国留学を自分で体感でき、とても良い学びを得られる。皆さんもぜひドイツに来て、西洋の文化や歴史を感じて欲しい」と笑顔で話した。

開成は日本の高校中でもあるため、ぜひこの環境を活かしてほしい。



▲留学生とホストファミリーがスキー場で撮った写真

がで、積極的に英語で交流を行っていた。放課後は、茶道部や書道部での部活体験、5年生とのけん玉、将棋などの日本文化の体験を行った。また、文化体験の後や週末は受け入れ生徒が札幌市街や近郊を案内して、観光やショッピングを楽しんだ。

今回のプログラムについて、受け入れを行った2年の長谷川里帆さんは「はじめは不安が強かったのですが、実際に受け入れが始まることも楽しかったです。友好が広がるきっかけとなり、コミュニケーション能力もついたので、とても良い経験となりました」と振り返った。また、今後の展望については「機会があればまた受け入れたいし、楽しさを周りに広めていきたい」と意欲的に取り組む姿勢をみせた。

ホームステイについて、キャリア支援部の三上先生は「ホームステイは留学と比べ、少ない費用で国際交流ができる。そのため、留学は難しいけれど国際交流を体験したいという生徒は、ホームステイも一つの選択肢である」と話した。

(小笠原昂・小川藍)

ホームステイについて、キャリア支援部の三上先生は「ホームステイは留学と比べ、少ない費用で国際交流ができる。そのため、留学は難しいけれど国際交流を体験したいという生徒は、ホームステイも一つの選択肢である」と話した。

(小笠原昂・小川藍)

